

被災地の子どもたちの声発信



子どもの投稿を呼び掛ける
HPの画面

東京の「支援ネット」

東日本大震災の被災地で子どもたちの支援活動に取り組む非政府組織（NGO）などが、被災した子どもたちの声を電子メールで募り、発信する活動に取り組んでいる。復興の過程にある今、子どもにも社会参加してもらおうのが狙いで、集めた声を政策提言にも役立てる。

メール「遊び場少ない」「原発心配」

日本ユニセフ協会など4団（HP）上に「子どもの目・体で運営する『東日本大震災 子どもの声』のコーナーを開く。子ども支援ネットワーク（東京）を対象は20歳くらいまでで、（東京）の活動の一環。5月の組 携帯電話やパソコンのメール 織発足と同時にホームページで投稿してもらい、匿名で掲

載する。

7月上旬までに約60件が集まった。岩手、福島など東北からの投稿が7割を占める。

「テレビで伝えていることよりもっと大変な思いをしています」「公園に仮設（住宅）がたつて遊ぶところが少ない」と現状を訴えるものや、「給食が出ればいい」

ボンにマスクをして学校へ行く、暑くて鼻血を出す友達がいる。はやくエアコンがつくといい」と福島第一原発事故に関する声もある。

今後、投稿した子どもたち同士の交流会も企画している。事務局は「埋もれがちな子どもたちの意見を大切にしたい。復興の過程で意見を発信することほ子どもたちの成長にもつながる。多くの子どもにも意見を寄せてほしい」と呼び掛ける。

「子どもの目・子どもの声」のアドレスはkodomo@s-hinsai-kodomoshien.net

「原発が心配」「長袖がス